

関西の景気ピックス【雇用関連（24年8月）】

- 24年8月の労働力調査（総務省）によると、近畿の完全失業率は2.7%（原数値）と、前年比で0.6ポイントの低下となった。変化の内訳は、就業者数が前年比で19万人の増加となり、失業者は6万人の減少、非労働力人口は19万人の減少と、総じて改善傾向となっている。なお、就業者数の増加は5か月連続で、失業者の減少は3か月連続。
- 一方、近畿の有効求人倍率（厚生労働省）は、24年8月は1.12倍（季節調整値）と前月比で0.01ポイントの低下となった。低下は2か月ぶりであり、有効求人数についても2か月ぶりの減少がみられる。
- 完全失業率や失業者数の推移が示すように、企業の人手不足の状況に変化はないが、有効求人倍率のほか、新規求人数の悪化傾向が続いている。この要因については、中小企業を中心とした経営環境の悪化による、求人の出し渋りが指摘されている。こうした状況はもちろん企業経営にプラスとはいえないだけに、今後の推移が注目される。

